

登別温泉開湯150年、 名湯に歴史あり。

はるか昔、アイヌの人々に
薬湯として重宝された登別の湯。

やがて温泉宿が設けられ、

1858年に登別温泉として開湯してからは、

日露戦争で傷ついた兵士を癒す湯として、

地獄谷や大湯沼、奥の沼、

大正地獄など多くの源泉のもと11種もの泉質を有する名湯として、

その名を全国に知られるようになりました。

今なお熱湯を噴き出し続ける地獄谷では、

煙の向こうにのんびりと湯浴みを楽しむ

地獄の鬼たちの姿が見えてきそうです。



地獄谷



登別地獄まつり

地獄谷

奥の湯から20分ほど歩いたところにある、直径450メートルの爆裂火口跡。あたり一帯に強烈な硫黄の臭気が立ちこめるなか、地の底から熱湯や蒸気、火山ガスが噴き出しているさまは、まさに地獄さながら。

登別地獄まつり

8月最後の土・日、北海道屈指の温泉地、登別温泉の地獄谷で“地獄の釜のふた”が開き、閻魔大王が赤鬼、青鬼などを引き連れて温泉街を練り歩きます。祭りの終わりとともに、登別にも秋が訪れます。



天然足湯

天然足湯

湯気を上げながら流れる大湯沼川を利用した天然の足湯。ベンチが数カ所あり、散策路で疲れた足を自然の中で癒せます。

